

令和6年度企画展

きみの じゅん ぞう 君野順三が見た 鳥取大火



令和6年

4月12日(金)～28日(日)

- ◆ 開館時間：午前9時～午後5時
- ◆ 場所：鳥取県立公文書館展示コーナー
- ◆ 主催：鳥取県立公文書館

0857-26-8160

<https://www.pref.tottori.lg.jp/kobunsho>

入場
無料

鳥取大火とは

昭和27（1952）年4月17日午後2時55分頃、鳥取市吉方の市営動源温泉付近から出火した*1。この日はフェーン現象による強い南風が吹いていたため、火は瞬く間に燃え広がり、旧市街地の3分の2を焼き尽くした。

鳥取測候所の記録によると、4月17日午後3時の気温は25.3℃、湿度は28%と極めて乾燥した状況であった。そこへ風速10.8mの南南西の強風が吹き付けており、一度発生した火は瞬く間に燃え広がっていった。火は風下の末広通りを越えて東北方向に延び、唯一の防火線とされていた袋川も越えた。

午後7時、火の手が鹿野街道に迫った頃、風速は5.5mに弱まったが、午後11時には風速13.5mを記録し、鑄物師町（現、寿町）の西中学校まで延焼した。強風による飛び火で湯所町天徳寺が焼失、さらに丸山や覚寺峠の山林にも火が移り、ついには鳥取駅から5kmほど離れた摩尼寺付近にまで到達した。

翌18日午前2時頃、雨が降り始めた頃から火勢は弱まり、午前3時頃によく鎮火した。

火災発生の原因は諸説あり*2、2カ月に及ぶ捜査が行われ、1千人以上の関係者が取り調べを受けたが、出火原因の特定には至らなかった。



二ノ丸から見た市街地（昭和27年4月19日撮影）

手前には仁風閣、左上に県立鳥取図書館、久松小学校の校庭が見える。



西町の県立鳥取図書館（昭和27年4月19日撮影）

右端が県立鳥取図書館。一部は焼失したが、被害を免れた講堂は、被災者の避難所として開放された。



焼失した建物（昭和27年4月19日撮影）

君野の自宅付近で撮影された。石積みの基礎部分を残して建物は完全に焼失している。生け垣や庭の樹木も被災している。

*1 動源温泉付近から出火する前に、裏手の空家から出火（ただちに鎮火）している。

*2 原因の一つとして蒸気機関車からの飛び火が疑われたが、確証は得られなかった。

被害の状況

大火による被害は、死者2人、負傷者3,966人、罹災者数は2万4千人に上った。焼失建物は個人の家屋5,228戸、公共施設・会社・銀行等510棟（官公署14、学校5、病院その他厚生施設5、銀行8、百貨店1、映画館3など）で、被害総額は193億2,639万円（推定）に上るなど、戦後では国内最大級の火災となった。^{*3}

最も大きな被害を受けたのは市内の商工業であった。当時、鳥取市内にあった商工業関係の事業所の約半数が被災し、罹災世帯の大半が商店や工場だった。市内中心部の繁華街が罹災したため、飲食店や呉服店は6割以上が被災した。

焼失区域が広範に及んだのは、火元からの飛び火により新たに16カ所^{*4}で火災が発生し、燃え広がったこともある。また、防火帯である袋川を越えたことで、被害が拡大した。当時、袋川に沿って、昭和18（1943）年の鳥取大地震後に建てられた応急仮設住宅（バラック）があったことも影響した。

一方で、猛火に耐えた建造物もあった。^{えびす}戎町の富士銀行（現在の旧島根銀行ビル）、二階町の^{ごぞうえん}五臓圓、西町の県立鳥取図書館で、いずれも鉄筋コンクリート造であった。また、駅前通りの一部は、市民のバケツリレーにより、延焼を防ぐことができた。



君野邸の門柱（昭和27年4月19日撮影）

表札には英文で“LAW OFFICE Lawyer J. Kimino”とある。大火の時には、米軍が進駐していた。



焼失した君野邸

（昭和27年4月19日撮影）

門構えだけが残された屋敷内から、県立鳥取図書館を望む。この付近に火の手が回ったのは、大火当日の午後8時頃であった。



焼失した君野邸（昭和27年4月19日撮影）

外壁の一部を残して焼け落ちた西町の君野邸跡。男性が瓦れきを片付けている。

^{*3} 『鳥取市大火災誌（災害救護篇）』（鳥取県庁・鳥取市編、1953年刊）

^{*4} 「第四回 延焼等時線」（『昭和27年4月17日 鳥取大火と気象概報』、鳥取測候所）

君野順三と鳥取大火

君野順三^{きみの じゆんぞう}は、明治16（1883）年、八東^{はつとう}郡若桜宿^{わかさ}（現八頭郡若桜町）に生まれた。明治34（1901）年、東京法学院（現中央大学）を卒業し、同36年に鳥取市内に弁護士事務所を開いた。大正6（1917）年に鳥取市会議員に当選した。昭和2（1927）年には鳥取県会議員に選ばれ、同6年まで務めた。議員として活動する傍ら、鳥取弁護士会会長も務めた。鳥取大火を経験したのは、死去する2年前のことだった。

君野家旧蔵の鳥取大火関係写真は全部で9枚あり、君野の邸宅兼事務所があった西町の付近を写したものが5枚あり、あとの4枚は、二ノ丸から市街地を望んだもの、若桜橋付近、若桜街道本町一丁目付近、袋川沿いの焼失した桜並木をとらえている。

撮影者は不明^{*5}ではあるが、写真とともに撮影日・場所が書かれており、大火の状況を表す貴重な記録である。



写真原本

写真は台紙に貼り付けられ、台紙に解説文が記されている。



豪雨（昭和27年4月20日撮影）

餘熱のある焼跡からは湯気が立昇る。嘗ての繁華街若桜街道筋百村^{ももむら}付近を見る。左後方は国警本部跡のビル（写真台紙に書かれた解説文より）



袋川沿いの桜並木（昭和27年4月20日撮影）

この大火により、160本の桜樹が被災した。現在の桜並木は大火後に植えられたものである。



若桜橋から久松山を望む（昭和27年4月20日撮影）

女性が傘を差して歩く姿が印象的である。上の写真と同時間の豪雨の中での撮影である。

*5 撮影者は君野家の関係者であると推測される。